

職員リレーエッセイ

今月号より、職員リレーエッセイを再開いたします。

平成28年5月号よりスタートした職員リレーエッセイですが、3年の時を経て常勤職員を網羅する事が出来ました。「第二クール」？として、今までバトンが渡らなかった方達にもご参加いただき、より広く、より多様なリレーエッセイにするべく、新たなスタートを切らせて頂きます。

個人的には「金太郎飴」で面白味が無いと思いつつ、ここは言い出しっぺの責任と、今月号は編集委員の大須賀が担当させていただきます。

読者の皆様に興味を持って頂き、楽しみに待って頂けるようなリレーエッセイになればと思っております。

「 Old Battle Field 」

総務 事務員 大須賀康宏

国道1号線の中京競馬場の付近に、「Old Battle Field」の看板と矢印が出ています。察しの早い方は、「ああ」と思われたと思います。そう「桶狭間古戦場」の看板です。英語表記の文法として正しいかどうかは別ですが、妙に興味の湧く表現で大変興味を持ちました。確かに「Old（古い）Battle（戦い）Field（地）」、直訳すれば「古戦場」なんだ。

この道は、ニコニコ鳴海の送迎時によく使用しますので、何度も通過する内に目に焼き付いて仕舞いました。そうすると、色々調べたくなるのが人情です。

一般的には、2万人とも4万5,000人とも言われる大軍を率いた今川義元を、おおよそ3,000人の勢力で迎えた織田信長軍が、「桶狭間」の地で見事に打ち破った、大番狂わせとして歴史に名を残すことになった、「桶狭間の戦い」が行われた場所です。

「つわものどもが夢の跡」、こんな身近に戦国時代の有名な跡地が有る事に、なぜか感動に近い物を感じました。この物語の主人公「織田信長」。若い頃は、尾張のうつけものとして、他の武将の失笑を買っていたそうです。一説にはADHD（注意欠陥多動性障害）ではなかったかと言われています。（ミネルヴァ書房「発達と障害を考える本」出典）そんな信長の個性が、嵐の中の奇襲攻撃（これも諸説あり）を生み出し、天下統一の道を突き進む、「世界史上稀に見る大逆転劇」（作家・井沢元彦氏）を生み出したのでは。

多様性の時代と言われる昨今ですが、私たちの周りには、まだまだ古い慣習やしがりみが存在しています。そんな事にとらわれる事無く、信長の様に自由な発想で、困難を乗り越えられたらと、今はのどかな田舎を思わせるような桶狭間を、送迎車で走りながら思いを巡らしていました。

次回のリレーエッセイは、ホーム世話人の原田尚紀さんへ繋がります。